

平成 25 年度青少年海外派遣事業 参加団員募集

登米市青少年海外派遣事業は、次代を担う国際感覚豊かな青少年を育成することを目的に実施している事業です。中高生を団員として海外に派遣し、ホームステイや市民との交流、学校訪問などを中心としたプログラムを予定しています。

区分	ジュニア大使コース 【オーストラリア】	ジュニア友好コース 【アメリカ】
派遣期間 (予定)	平成 25 年 11 月 12 日 ～ 11 月 19 日	平成 26 年 3 月 19 日 ～ 3 月 26 日
負担金	5 万円	概ね 20 万円
応募人数	5 人	10 人
応募資格	市立中学 3 年生	市内居住の中学 2～3 年生、高校生

【応募方法】 市内中学校・高校、教育委員会に備え付けの「青少年海外派遣事業参加申請書」に必要事項を記入の上、教育委員会生涯学習課に提出してください。

【応募書類】 参加申請書と作文（テーマ「①応募の動機、②海外派遣に参加して何を学びたいか、③海外研修の経験を帰国後どのように生かしたいと考えているか」を明記＝字数 1,200 字程度）

【応募締切】 平成 25 年 5 月 17 日（金）午後 5 時必着

【留意事項】 負担金や応募資格などには条件があります。詳しくは実行委員会事務局にお問い合わせください。

【問い合わせ】 市青少年海外派遣受入事業実行委員会事務局（教育委員会生涯学習課）

☎ 0220-34-2698



異国の地での見るもの、聞くもの
全てが新鮮な驚きの連続です



異国の文化・風習を肌で感じた経験 これからの人生に、きっと役立つ

数多くの渡航歴がある私にとっても、姉妹都市であるテキサス州サウスレイク市の訪問は今回で 2 度目。重責を担うジュニア派遣（中・高校生 9 名）事業の団長として当市を訪問するのは初めてのことで、始終緊張の連続でした。

現地では、国際交流協会の方々や、これまで登米市を訪れた多くの方々のご支援を受け有意義な旅を送ることができました。

た。研修では、団員一人一人に日本では得ることができない数多くの異文化を肌で感じ取ってもらったこと、多くの人の交流を成し得るために団員の自主性を尊重し仲良く楽しく、そして無事帰国するという目標を自分の中に立てての旅でもありました。

ジュニア友好コース（アメリカ）
団長 佐々木 信一さん



は数多くの牛や馬がのんびりと草を食べている姿を見ることができました。

訪問先では、どこでも温かく迎えていただきました。現地の高校を訪ねた際には生徒会の学生が中心となり、校内を案内してくれました。授業しているクラスに入ったら時には、担任の先生が自らクラスの生徒たちとの対話の時間を取ってくれたなど、何かと気を遣っていただきました。校内にある食堂での昼食の時間には、これまで登米市を訪れた生徒たちや、ホームステイ先の生徒が集まり団員たち

と笑顔で対話をする姿を見て、今回の訪問の目的が達成したという気持ちになりました。

ホームステイ先でも、団員皆がホームステイファミリーとのたくさん思い出ができたことはもちろんのこと、日本の家庭と違う貴重な生活習慣を体験したことは、これからの人生にきっと役立つものと思います。

今回、団員たちが文化・風習の全く違う異国を訪問し、数々の貴重な体験を通して得た経験を生かし、将来にわたり心豊かな人生を送ってもらいたいと期待しています。

ジュニア友好コース 【アメリカ】参加者

平成 25 年 3 月 21～28 日

- 団長 佐々木 信一（中田町・南加賀野）
 団員 熊谷 名月（佐沼高 2 年）
 三浦 菜津子（登米高 2 年）
 小野 夏実（新田中 3 年）
 小林 夏海（佐沼高 2 年）
 原 那月（佐沼中 2 年）
 飯塚 真実（佐沼高 2 年）
 清野 ひかる（佐沼高 1 年）
 堀田 晶子（津山中 3 年）
 阿部 杏佳（津山中 3 年）
 ※ 学校・学年は参加当時のもの



ホームステイ先のホストファミリーに身振り手振りで意思を伝える団員ら。本気になれば、言葉の壁は気になりません



不安だったホームステイ 家族のように過ごせた

最初はホームステイがすごく不安でした。それでもホストファミリーと会話しているうちに不安が少しずつなくなり、本当の家族のように楽しく過ごすことができました。このように楽しく過ごせたのは、お世話になったホストファミリーの皆さんと派遣事業に参加させてくれた家族のおかげです。



小野 夏実さん

この海外派遣は私にとって大きなチャレンジとなりました。

ホストファミリーとは一緒に買い物を楽しんだり、お互いの文化の話をしたり心に残る思い出がたくさんできました。私は日本食の「うどん」を作り食べてもらいました。外国人の口にあうか心配していましたが、大好評でも喜んでくれました。感動で今も印象に残っています。これからもホストファミリーとの縁を大切にして、またアメリカを訪れたいです。



原 那月さん

作ったうどんが大好評
縁を大切に、また訪れたい